

授業の視点	文章を主体的に読もうとする態度を育てる学習過程の工夫
-------	----------------------------

1 単元名 書く人のくふうを考えよう『ほけんだより』を読みくらべよう

2 単元の目標

- (1) 2つの文章を読み比べ、進んで事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いを見つけようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 2つの文章のどちらがよいと思うか、理由を明確にして書くことができる。 (書くこと)
- (3) 2つの文章の共通点と相違点をとらえるために、大事な言葉や文に気を付けて、書かれている内容を短くまとめながら読むことができる。 (読むこと)
- (4) 2つの文章を読んで、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

本学級の児童は、4月に「すいせんのラッパ」を学習し、動作化を取り入れた読みに積極的に取り組んできた。5月には「えらんだ理由を話そう」で基本的な話型を学習したり、説明文「自然のかくし絵」で段落ごとの内容を読み取る学習もしたりした。しかし「自然のかくし絵」の学習では教師主導型の学習内容となってしまう、内容の理解に個人差がみられ、読むことに意欲をなくしてしまった児童もいた。

そこで本単元では、児童が主体的に文章の内容を読もうとする態度が育つように、単元を通した目的を明確にもって学習を進めることができるような授業づくりを工夫していきたい。

この教材の重点指導事項は、C 読むこと(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係を考え、文章を読むこと」であり、実生活での様々なテキストを読み比べ、意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を養うことをねらいとしている。本教材では、食後に歯をみがかせるという目的は同じだが、虫歯の原因と予防法を説明することで納得させる文章と、虫歯の怖さを強調することで心理的に訴える文章という、表現の意図が異なる2つの文章を読み比べさせる。さらに、どちらの文章がよいと思うかとその理由を文章に書くことで、自分の考えが明確になるような表現の力も付けさせたい。

そのため、指導にあたっては、最終的に身近な存在の人に自分の考えを伝えるという目的意識と、2つの「ほけんだより」を読み比べるというおもしろさから進んで文章を読み込んでいくことができるようにさせたい。単元終盤でほけんの先生に伝える「わたしのおすすめ」は手紙の形式をとり、意欲的に自分のおすすめの「ほけんだより」とそれを薦める理由が書けるようにしていきたい。

4 指導計画（7時間取り扱い）*㊦が本時

次	時	主な学習内容	主な評価
1	1	学習の見通しをもつ。 ・ほけんの先生の悩みを知り、「わたしのおすすめ」としてアドバイスの手紙が書けるような計画をたてる。	・2つの文章を読み比べ、進んで事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いを見付けようとしている。 〈関〉
2	2 3 ④ 5	2つの文章を読む。 ・2つの文章の同じところと違うところをみ付ける。 ・1つ目の文章を読む。 ・2つ目の文章を読む。 ・2つの「ほけんだより」を比べる。	・2つの文章の共通点と相違点をとらえるために、大事な言葉や文に気を付けて、書かれている内容を短くまとめながら読んでいる。〈読〉 ・2つの文章を読んで、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。〈言〉
3	6 7	手紙を書く。 ・答え方や理由の書き方の既習内容を確認する。 ・自分のおすすめの「ほけんだより」とその理由を手紙に書く。	・2つの文章のどちらがよいと思うか、理由を明確にして書いている。 〈書〉

5 本時の指導

(1) 目標

2つ目の文章の大事な言葉や文を見つけることによって、書かれている内容のまとまりを考えながら読むことができる。

(2) 準備・資料

掲示用資料、ワークシート、挿絵、移動式黒板

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	指導上の留意点及び評価
<p>1 本時の学習課題を確認し、前時までの学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2つ目の「ほけんだより」にはどんなことが書いてあるだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの文章には同じ文のところと違う文のところがある。 ・1つ目の文書の違うところの内容を確認する。 「困ること」 「虫歯をふせぐこと」 「題」 <p>2 2つ目の文章を読む。 「困ること」</p> <p>3 見付けたことを発表する。 「困ること」 ものや冷たいものがしみる だんだんいたみを感じる 大好きなものや好きなものが食べられなくなる 歯を抜かなければならない 抜いた歯はもう生えてこない 「虫歯をふせぐこと」</p> <p>4 2つ目の文章の「題」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫歯になるとこわいぞ ・虫歯になるとこんなにいやなことがあるよ ・いやなことがいっぱい虫歯 ・虫歯はいやだ <p>5 本時のまとめをし、次時の学習活動を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の酒井先生によりアドバイスができるように今日は2つ目の「ほけんだより」の文章の違うところを読むことを確認する。 ・線の引き方と色で2つの「ほけんだより」の同じところと違うところの区別を分かりやすくしておきたい。 ・2つの文章の同じところと違うところには大森先生の伝えたいことが書いてあることを確かめる。 ・1つ目の「ほけんだより」の板書を残しておき、2つ目の「ほけんだより」と比べることを意識付ける。 ・「困ること」を探すことで、文章の大事な言葉や文に気付かせるようにしたい。 ・大事な言葉や文が分かりやすいように、赤でサイドラインを引きながら繰り返し読むとよいことを助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的にも分かりやすくするために板書に挿絵も取り入れ、より一層の理解を図りたい。 ・大事な言葉を見つけられない児童には、「自分がもしこうだったらいやだな」ということを考えながら見つけるように支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1つ目の文章のように「虫歯をふせぐこと」もあるか確認して、違いを暗に示唆する。 ㊦ 2つ目の文章の大事な言葉や文を見付けながら読んでいる。(発表・ワークシート) (読む能力) ・本当に発行できるような「ほけんだより」のワークシートを用意し、意欲的に考えられるようにしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・1つ目の「ほけんだより」の「題」と対比させて、違いに気付きやすいようにする。 ・「題」を考えるときは、文章を読み返したり板書の言葉や絵などを参考にしたりすると考えやすいことを伝える。 ・悩んでいる児童には、自分なりの考えでよいことを伝え、安心して考えられるように支援したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・次時は、2つの「ほけんだより」の違いやよさを比べることを学習計画から確認する。